

2023 年 1 月 23 日

2022 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究

「産後ケア事業における評価質問紙」の信頼性・妥当性の検討

Reliability and Validity of the Postpartum Care Service Quality of Care Scale

21MW017

渡邊佑季子

要旨

【目的】

令和元年、産後ケア事業が法制化されたが、事業の質の評価に際して標準化されたツールは用いられておらず、事業の質の保証が課題である。「産後ケア事業における評価質問紙」は、内容妥当性、表面妥当性については検討されたものの、構成概念妥当性、信頼性については検討されていない。本研究では、産後ケア事業の質を的確に、標準化して測定できるツールとするため、構成概念妥当性・信頼性の検討を目的とした。

【方法】

本研究は、尺度開発研究である。開発された質問紙の内容を再度検討後、6 下位概念 15 項目に修正し、5 件法のリッカート尺度とした。東京都内で産後ケア事業(ショートステイ型)を実施する施設での、ショートステイ利用後の利用者を対象に、Google フォームを用いて無記名自記式の質問紙を配布した。探索的因子分析と確認的因子分析を行った。なお、本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号:22-A065)。

【結果】

51 名から回答を得られ、すべてを分析対象とした。探索的因子分析の結果、産後ケア事業における助産師のケアによる利用者アウトカムは【自分に合ったサポートを得る】【自信を持って楽しい育児ができる】【帰宅後の育児に見通しを持てる】【安らぐ環境で心身をいたわる】の 4 因子構造が明らかになり、14 項目の質問項目へと精選された。確認的因子分析の結果、4 因子が互いに相関しているモデルでの適合度が高く、CFI=0.862 RMSEA=0.020 であった。クロンバック α は尺度全体では 0.819、第一因子は 0.77 と 0.7 を上回ったが、第二因子は 0.619、第三因子は 0.597 と低い値だった。

【結論】

尺度は 4 因子 14 項目で構成され、尺度の構成概念妥当性が確認された。信頼性は、下位尺度ごとでは信頼性が低いものもあり、質問項目数が少ないことや質問の表現の再検討の必要性が示唆されたが、尺度全体では当該概念を構成する項目群の測定結果に信頼性を確保していると判断した。本尺度は、産後ケア事業(ショートステイ型)の助産師のケア内容を、量的、客観的に評価するツールとして活用することができ、産後ケア事業のケアの質の向上において有用であると考ええる。